



# 坂下しげき県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411



本会議の壇上で一般質問を行う坂下茂樹県議

## 救命に大きく貢献

# 電車やバスに

# AED設置を

生まれ育った市川を誰からも愛される街にと、市民の要望実現にまい進している坂下茂樹県議（2期）は6月定例会議で一般質問に立ち、県政の課題や施策について県執行部に質しました。視察に訪れた台湾で地下鉄1両ごとにAEDが据え付けられていたのに感心した坂下県議は、国内でも電車やバスなどの交通機関への設置を進める必要があるとして、県の考えを聞きました。このほか、農林水産政策や道路行政、保育士確保施策などについて質問や要望を行いました。坂下県議の質問と県執行部の答弁を特集します。

### 6月定例会議 一般質問

坂下議員 救急自動車の現場到着所要時間は、全国平均で8.6分。これに対し、救命率は心停止後、1分経過することに7%から10%低下する。つまり、救急車が到着する8分が経過すると救命率は約20%まで低下する計算になる。また、心臓が血液を送らなくなると、3分〜4分以上で脳の回復が困難になると言われている。しかし、早い段階での適正な心肺蘇生法とAEDの効果によって救命率は大きく回復するとされている。本県では、「千葉県AEDの使用及び心肺蘇生法の実施の促進に関する条例」が

平成29年4月1日に施行され、環境の整備が始まった。AEDの使用は、救命や社会復帰の面で優れた効果を発揮するが、一般市民によって実施される件数が極めて低い状況にある。AED使用率を上げるためには、設置数を増やすこと、及び使用方法の普及が重要であると言える。そこで、電車やバス等公共交通機関への設置を進める必要があると考えるが、県としてどのように考えているのか。保健医療担当部長 千葉

坂下議員 救命講習を受講している成人人口の割合はどうか。また、救命講習の普及についてどのように考えているのか。保健医療担当部長 受講

坂下議員 救急自動車の現場到着所要時間は、全国平均で8.6分。これに対し、救命率は心停止後、1分経過することに7%から10%低下する。つまり、救急車が到着する8分が経過すると救命率は約20%まで低下する計算になる。また、心臓が血液を送らなくなると、3分〜4分以上で脳の回復が困難になると言われている。しかし、早い段階での適正な心肺蘇生法とAEDの効果によって救命率は大きく回復するとされている。本県では、「千葉県AEDの使用及び心肺蘇生法の実施の促進に関する条例」が

県AEDの使用及び心肺蘇生法の実施の促進に関する条例では、県有施設へのAEDの設置について規定していますが、それ以外の駅や空港、スポーツ施設、大規模商業施設、学校等への設置促進についても、重要な取り組みであると認識しており、現在策定中の基本計画にも、その旨を盛り込む予定です。まずは、こうした施設等への設置をより進めていくことで、AEDの効果的かつ効率的な設置促進を図っていきます。

県AEDの使用及び心肺蘇生法の実施の促進に関する条例では、県有施設へのAEDの設置について規定していますが、それ以外の駅や空港、スポーツ施設、大規模商業施設、学校等への設置促進についても、重要な取り組みであると認識しており、現在策定中の基本計画にも、その旨を盛り込む予定です。まずは、こうした施設等への設置をより進めていくことで、AEDの効果的かつ効率的な設置促進を図っていきます。

AED等の使用を躊躇せず行うためには、効果と実施方法を知ってもらうことが大切です。若年層や現在受講する機会のない層などへの効果的に受講を促す取り組みを検討するとともに、あらゆる機会を通じてAED等の知識の普及・啓発に努めてまいります。

**坂下しげき PROFILE**

■経歴■

- 昭和49年11月 市川市生まれ
- 昭和62年3月 市立曾谷小学校卒業
- 平成2年3月 市立第一中学校卒業
- 平成5年3月 船橋法典高校卒業
- 平成9年3月 日本文化大学卒業
- 平成15年4月 金子和夫県議秘書
- 平成15年4月 市川市議会議員初当選(2期連続当選)
- 平成23年4月 県議会議員初当選

■現職■

- 県議会 農林水産常任委員会委員

●県政や地元市川市のご相談、ご要望をお寄せください

**坂下しげき 県議事務所**

〒272-0022 市川市鬼越2-5-8 旧金子和夫事務所  
TEL.047-318-0055 FAX.047-318-0500



# 農業研究の拠点建て替え

## 農林総合研究センター

### 31年度に供用目指す

坂下議員 千葉県の農林水産業についてかがう。平成29年度が最終年度となる千葉県農林水産業振興計画では、農業産出額全国第2位、海面漁業漁獲量全国第6位を目標としている。

本県の農業の中心的役割を果たす「農林総合研究センター」の建て替えにより期待される効果と今後のスケジュールはどうか。

1の施設を集約して本館を建替えることとし、6月補正予算案において、本館工事費31億5千2百万円の31年度中の供用開始を予定しており、収益力が高

新本館では、良質で高機能な新技術の開発・研究の促進や、生産現場での迅速な課題解決を図るため、研究員の執務室のワンフロア化や、農業者等との共同研究スペースなどを設置することとしております。

### 坂下しげき県議会レポート

知事 県では、新品種の開発や新たな栽培技術の確立などの機能強化に向けて、研究体制を更に充実させるため、農林総合研究セン



議場の自席で再質問を行う坂下茂樹県議

新たな収入源として、東京湾での二枚貝の養殖の普及に本格的に取り組んでいる。同じ東京湾でも本県とは環境が異なるが、東京湾北部海域における貝類養殖の取り組みに対する本県の考え方をうかがう。

知事 全国的にアサリなどの資源が減少する中、海中のプランクトンを食べて育つ二枚貝の養殖は、餌を与える必要がなく経費が抑えられ、また、計画的な生産が見込めることから注目されているところだ。

坂下議員 通行禁止道路の通行許可について、今後、千葉県でも電子申請を導入すべきと考えるがどうか。

警察本部 車両通行止めは、交通安全確保の観点から、通行許可に際しては慎重な審査が必要であります。

### 救急患者搬送時間短縮へ

## 医療機関に空床確保

坂下議員 県民の命を守る医療体制の充実についてうかがう。救急搬送の状況はどうか。また、新たに実施する「搬送困難事例受入医療機関支援事業」の効果及び今後の対応はどうか。

保健医療担当部長 消防庁の調査によると、平均搬送時間は、全国平均39・4分に対し、千葉県平均は44・6分と搬送に相当な時間を要している状況にあります。

また、県の調査では、傷病程度別の平均搬送時間は、重症で44分、中等症で43・8分、軽症で43・2分、平均病院交渉回数別では、重症で

1・27回、中等症で1・34回、軽症で1・44回となっており、他の医療圏と比べ、医療機関の数が多くにも関わらず救急隊と受入医療機関との交渉回数が多く、搬送時間が長い千葉医療圏で実施し、その事業効果を検証した上で、その後の対応を検討してまいります。

確保に要する経費を助成する「搬送困難事例受入医療機関支援事業」を実施する予定です。

坂下議員 今後とも、新しい養殖技術の開発を進めるとともに、先行事例の紹介や地域に適した養殖技術の指導など積極的な支援を行い、東京湾北部海域の漁業生産力の向上に努めてまいります。

坂下議員 通行禁止道路の通行許可について、今後、千葉県でも電子申請を導入すべきと考えるがどうか。

坂下議員 東京ベイ・浦安市川医療センターの救急基幹センターの指定による効果をどう考えているのか。

坂下議員 東京ベイ・浦安市川医療センターを、平成29年4月1日付けで当該センターに指定しましたが、東葛南部医療圏において3か所の救命救急センターの補完的役割と責任が明確となり、これまで以上に高度で質の高い救急医療の提供が期待されます。



### 浦安市川医療センターを救急基幹センターに指定 高度な救急医療期待

坂下議員 東京ベイ・浦安市川医療センターを、平成29年4月1日付けで当該センターに指定しましたが、東葛南部医療圏において3か所の救命救急センターの補完的役割と責任が明確となり、これまで以上に高度で質の高い救急医療の提供が期待されます。

坂下議員 東京ベイ・浦安市川医療センターの救急基幹センターの指定について、期待される効果が確実に発揮されるよう検証と支援をお願いしたい。

### 市川沖でアサリ養殖実験

坂下議員 神奈川県では新たな収入源として、東京湾での二枚貝の養殖の普及に本格的に取り組んでいる。

海域は、餌となるプランクトンは豊富ですが、通常行われている吊り下げ式の養殖を行うには水深が浅く、夏の青潮や冬の波浪の影響がある。

今後とも、新しい養殖技術の開発を進めるとともに、先行事例の紹介や地域に適した養殖技術の指導など積極的な支援を行い、東京湾北部海域の漁業生産力の向上に努めてまいります。

### 警察への許可申請 電子申請の検討を

坂下議員 通行禁止道路の通行許可について、今後、千葉県でも電子申請を導入すべきと考えるがどうか。

警察本部 車両通行止めは、交通安全確保の観点から、通行許可に際しては慎重な審査が必要であります。

坂下議員 電子申請の活用は、申請のために警察署に赴く必要がなくなるため、県民の利便性が大きく向上する。

坂下議員 東京ベイ・浦安市川医療センターの救急基幹センターの指定について、期待される効果が確実に発揮されるよう検証と支援をお願いしたい。



# 市川広小路交差点の北側直近交差点

## 直進車線増で 渋滞解消検討



危険な市川広小路交差点の北側直近交差点

において重要な課題となっている道路等の整備についてうかがう。

まず、市川広小路交差点の北側直近交差点は、車線数が短距離で目まぐるしく変わることから、大変危険であり、渋滞も増えていると地元から多くの指摘が上がっている。

このことについて過去の議会で質問をしているが、この県道市川松戸線における市川広小路交差点の北側直近交差点の改良について、進捗状況はどうか。

県土整備部長 当該交差点については、車両による交通事故が多く、安全対策として直進車線を絞り、右折レーンを設置したところですが、このことが渋滞を

招く要因となっております。このため、渋滞対策の検討を行ったところであり、現在は、直進車線を2車線に増やすなどの設計協議を関係機関と進めているところとです。

今後とも、関係機関と調整を図り、地元の皆様の御意見をうかがいながら、渋滞の早期改善に努めてまいります。

## 行徳橋架け替え工事 (仮称)妙典橋の架橋

## 工事、着々と進行

坂下議員 行徳橋・妙典路線。この重要路線である行徳橋の進捗状況はどうか。県土整備部長 行徳橋は、国が実施する行徳可動堰の

改修に併せ、国と県が共同で架け替え工事を進めております。

このうち、国が施行する橋梁部では、これまで下部工6基が完成しており、今年度は、残る下部工2基と上部工の工事を実施する予定と聞いております。

県が施行する取付道路部では、河原地区において、用地取得と盛土工事を実施しており、用地取得率は面積ベースで約9割となっております。今後、関係機関と連携し、また、地元の皆様のご理解と御協力をいただきながら用地取得を進め、事業の推進に努めてまいります。

橋の進捗状況はどうか。県土整備部長 (仮称)妙典橋については、高谷地区と妙典地区を結び、市川市内の交通混雑の緩和を図り、安全な生活環境を確保するために、整備している橋梁でございます。

昨年度までに、江戸川渡河部の橋梁上部工事が完了し、今年度は、高欄や照明、妙典側の取付部の工事を実施することとできる内覧会を今後も引き続き、利用者目線で見守ってまいります。

## 市町村職員や議員に 成田空港利用依頼を

坂下議員 成田国際空港の利用促進の方法として、県内の市町村・市町村議会に対して、成田空港の積極的な利用を依頼するなど、身近なところから始められることがあると思う。成田空港の利用者拡大に向け、県内市町村などへ利用促進の働きかけが必要と考えるがどうか。

また、成田空港活用協議会においても、国内線の利用促進活動として、会員市町村と連携した利用促進キャンペーンをこれまで実施してきたところであり、県では、引き続き、活用協議会をはじめ関係機関とともに、その利用促進に向けた活動を行ってまいります。

## 電柱移設で歩道改善

### 国道14号本八幡駅前入口交差点・市川インター入口交差点

坂下議員 国道14号線は通行車両も歩道利用者も多く、生活道路でもある。しかし、歩道は極端に狭く、その狭い歩道に電柱が林立しており、路面もガタガタ

で整備が行き届いていない。視覚障がい者、車椅子・ベビーカー利用者、高齢者の方など大変危険な状態にあり、これらの歩道の改善については、以前より要望

している。

この国道14号の本八幡駅前入口交差点から市川インター入口交差点間における歩道の改善状況はどうか。

県土整備部長 当該区間は、駅にも近いことから、多くの歩行者に御利用いただいておりますが、部分的に歩道幅員が狭くなっているなど、歩行空間は必ずしも十分とは言えない状況です。

このため、通行の支障となつている電柱を移設するよう、占用者と調整を行っているところであり、また、安全確保のため、段差解消など歩道の補修を実施したところとです。

今後とも、安全で安心して通行できる歩行空間の確保に努めてまいります。

坂下議員 国道14号の歩道整備についてだが、市民からの要望が多いので、引き続き早期改善を目指し努力していただきたい。

坂下議員 県内の市町村や市町村役場、市町村議会では、出張も多

いでしょうか、議員であります。視察等も行く。そのような時にやはり森田知事から市町村あてに出張担当の所に、羽田空港ではなく成田空港を使っていたらいい、また、できれば、市町村議長のほうに、宇野議長名で「視察等を活用する時には、成田空港を利用していただきたい」と、通知ではなく、依頼文を出して、是非使って欲しいんだということを発信していただきたいと思つ

成田空港が遠い地域では、成田空港の存在感が非常に薄れている恐れがあるし、成田空港の良さを知らずに、羽田空港を利用している場合もある。

少しでも多くの方に成田空港を利用していただけて、良さを発信してもらえよう、に、できることは何でも取り組んでいただきたいと要望する。



# 坂下県議の提言

私は、本会議で登壇する度に申し上げていることがあります。それは、本県の財政は、国民、県民の方の税負担、すなわち県民の汗によって成り立っているということであり、したがって、私たちが常に県民の方が何を求めているのかということを追及し、県民が必要とする政策を実施していかなければなりません。

そして、県民が必要とする政策を効果的に実施していくためには、その財源をしっかりと確保し、将来に過度な負担を残さない財政運営を心がける必要があります。本県の財政状況を見ると、平成29年度末の県債

残高の見込みは、前年度比321億円増の3兆1044億円に上ります。今後歳出では、社会保障費や公債費などの義務的経費の増加に加え、県有施設の老朽化対策など、大きな財政需要の増加が見込まれております。一方で、今年度の歳入は、

県税収入が前年度に比べ約167億円の減額が見込まれ、地方交付税についても臨時財政対策債等が前年度比70億円の増加となっており、

このような状況であっても千葉県は、県民のために必要な予算をしっかりと確保しつつ、将来に過度な財政負担を残さない県政運営をしていかなければなりません。歳入にあつては、自主財源の確保に努め、歳出に

あつては、行政コスト、事業コストの見直し、事業の選択と集中などやるべきことをしっかりと行っていく必要があります。事業の選択については、県民ニーズが多いもの、そして、県民ニーズが例え少なくとも行政がやらなければならないことについては、県民の小さな声にも耳を傾け、漏れなく選択していく必要があります。

# フットベースボール 学校への普及を図る 県教育庁

坂下議員 市川市が発祥とも言われているフットベースボールの学校現場での普及について、本県ではどのように取り組んでいるのか。

教育長 フットベースボールは、小学校で行うベースボール型ゲームのひとつであり、チーム対チームの攻防により、楽しさや喜びを味わうことができる運動です。

また、毎年度、千葉県特別支援学校体育連盟が主催し、千葉県教育委員会が共催する、千葉県特別支援学校ス

ポーツ大会において、フットベースボールの部を実施しており、平成28年度は、中学部で17校、17チーム、高等部で22校、24チームが参加しております。

坂下議員 県民の誰もが利用できるスポーツ環境を整えることは、重要な行政サービスであり、積極的に取り組んでいただくことを要望する。



質問戦が繰り広げられた6月定例県議会

坂下議員 フットベースボールは、知的障がい者の方のスポーツとしても普及しているが、本県での実施状況と支援の状況はどうか。

坂下議員 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて選手の育成等が行われているが、若い選手に夢を与え、将来の不安を払拭させ、ポテンシャルを最大限発揮できるよ

## 運動選手の引退後支援

うにするためには、運動選手のセカンドキャリアについても真剣に取り組む必要がある。そこで、運動選手の競技引退後の対応も見据え、どのような支援を行っているのかをうかがう。

教育長 運動選手が競技から引退した後、自ら転職先を探すのに苦慮し、セカンドキャリアの形成に支障を来す場合があります。

このため、日本オリンピック委員会と日本パラリンピック委員会では、企業への就職を望むアスリートと、競技活動に理解を示す企業と

を、マッチングする就職支援制度「アスナビ」を設け、トップアスリートの就職支援に取り組んでいます。県教育委員会といたしましても、関係者への「アスナビ」の周知を図るとともに、運動選手の競技引退後の生活に関する意識を高めるような啓発策について、検討してまいります。

坂下議員 約77万〜12万6千年前の地球の年代を「チバニアン」(千葉時代)と命名することを、日本の研究チームが国際地質科学連合に申請した。

地球の歴史に「千葉の名が刻まれるかもしれない重要な局面を迎えている。そこで、現在懸念材料の一つで

# 「チバニアン」を商標登録 「印刷物」での支障懸念

ある「チバニアン」が商標登録されたことについて、県はどのように考えているのか。教育長 個人の方の申請に基づき、本年3月、貴金属をはじめとする20項目の用途について「チバニアン」の商標登録が行われました。このうち「印刷物」の項目については、研究成果の公表等で支障が出る懸念されることから、研究グループの関係組織から、異議申し立てがなされています。県教育委員会としても、このままこの「印刷物」の用途の商標登録が認められてしまうと、模写地の認定が実現した際に、研究面での支障にとどまらず、この資産を活用した情報発信等を進める上でも、支障が生じるおそれがあるものと考えしております。

坂下議員 本県においても喫緊の課題である保育士の確保についてうかがう。本県の男性保育士の状況についてどうか。

健康福祉部長 平成29年4月1日現在の本県の登録保育士6万1584人のうち、男性は2452人で、前年より211人増えており、保育士全体の4.0%という状況です。これは、かつて「保育士」は「保母」と呼ばれ、保育所は女性中心の職場であった経緯もあり、更衣室やトイレなどハード面の環境が整っていないことに加え、他の職種と比べて給与水準が低いことも一因と考えられます。

## 市川南高校 保育基礎コース設置へ

坂下議員 平成31年度に市川南高校に設置される保育基礎コースの準備状況はどうか。教育長 県教育委員会では、県立学校改革推進プランの第3次実施プログラムにおいて、保育士等の不足する人材の育成を視野に入れ、社会のニーズに対応した保育基礎コースを、初めて市川南高校に設置することといたしました。同校では、コースの設置に向けて、校長や教務主任などを委員とした準備委員会を設置し、保育の学びがある高校などを視察しています。また、大学との連携についても、本年1月に聖徳大学と協定を締結し、現在、具体的な連携内容について協議を進めています。さらに、教育課程の検討や生徒の実習先の確保などに取り組んでいるところでございます。

**男性保育士 全体の4%**